



知らなかった住民税

大田区立貝塚中学校 三年 佐藤 縁

私は東京都の大田区に住んでいます。母と話していて「住んでいる区が違つと住民税も変わる。」と聞き驚いたので少し調べてみました。すると自分が住んでいる大田区と隣の品川区では住民税の使い道や金額に少し違いがあることがわかりました。

そもそも住民税とは何なのか、それは住む地域の公共サービスを支えるために住民が払う税金です。公共サービスは道路整備や公園の維持・設置、ごみ処理や教育などが入っています。

大田区と品川区の税率を比べると、住民税そのものの「税率」自体はほとんど変わりはありません。ですが「使い道」や「課税される人の割合」、「福祉や子育ての支援制度」などに違いがあると調べてわかりました。実際に2つの区の令和5年度特別区民税のデータから比較してみると、どちらも多く使われている分野は民生費でどちらかというとが5%ほど多く、この違いから大田区のほうが福祉への重点を置いていることが分かります。私の家の周りには老人ホームや障害者施設など福祉施設が多いと感じられるので納得する結果でした。次に教育費では品川区のほうが多く、学校運営や教育関連サービスなどの教育環境に品川区では

重点を置いています。品川区在住の小学生を対象とする「まもるっち」の配布や0歳から就学までの一貫保育・教育や小学校と保育園などの連携を積極的に進めているところなどから見て取れます。他にも市区町村の運営全般を行う総務費や、区の保険・環境・ごみ処理などを担う衛生費、道路や公園の整備をする土木費など様々なことで住民税が使われている事がわかりました。

上記のように品川区では子育て支援や学校運営、衛生面や公共施設の設備などにも一定の割合を使い、生活環境の向上を目指しているのがわかりました。一方、大田区は福祉支出が大きな割合を占めており、品川区と比べて教育費はやや少なめですが公政運営や区の維持管理に多く使っていて、地域の体制を支えることに力を入れている事がわかりました。私はこれまで税金について何も知らず、税金と聞くとなんとなく難しそうで自分には関係ないと思っていました。ですが税の宿題がでたことがきっかけでこのように大田区民として税金の使い道を知り、これから税金がどのようなことに使われているのか意識しながら生活していきたいです。また、大人になって住む場所を選ぶときには、税金の使い道やサービスにも注目したいと思いました。